

マダガスカルのお菓子の味は？
双葉高生、留学生と交流
小樽市の双葉高は2日、小樽商大に留学しているマ



マダガスカルの伝統菓子でディアモンドラさん(左から2人目)と交流を深めた2年生の生徒

ダガスカル出身のハリンジヤカピラ・ディアモンドラさん(26)を招き、異文化交流をテーマとする特別授業を同高で行った。同高で国際文化などを学ぶ2年生8人がマダガスカル

小樽ジャーナル 29年2月2日

キャッサバでおやつ作り 双葉高の異文化交流 (2017/02/02)

ツイート



小樽双葉高校(住ノ江1)は、2月2日(木)13:30から同校が取り組む、ドリーム専攻(通称:ドリプロ)グローバルカルチャー授業(国際理解・文化)で、マダガスカルから小樽商科大学に留学しているハリンジヤカピラ・アンドリ・ディアモンド(26歳・ニックネーム:ダイヤモンド)さんを招き、異文化交流を行った。

この授業は、生徒の進路や関心ごとに関する体験型の講座で、6つの専攻に分かれ、グローバル・カルチャーもそのひとつ。昨年6月から2月までブラジル文化やスリランカ文化などをテーマに13回を予定。日常会話だけではなく、海外から訪れた人にも日本文化を説明できる英語力をつけ、英語圏の文化も学ぶことを目的としている。最終回の2月23日(木)は、成果発表会を予定している。



ダイヤモンドさんは、大学卒業後働いていたが、2016年4月から8月まで、北海道大学で日本語を学び、9月から小樽商科大学の留学生となった。

今回は、アフリカを中心に主食として食べられているイモノキ属のキャッサバを使って、パンのようなおやつ「ムフマンガハズ」の作り方を、ダイヤモンドさんに教わった。タピオカの原料となるキャッサバは、デンプンを豊富に含み、油で揚げるともちもちした食感となる。日本で栽培する鹿児島県徳之島の島田六男さんから10kgの寄付があった。



同校2年の男女8名が調理室に集まり、はじめに自己紹介を英語で行い、作業に取り掛かった。あらかじめ下茹でしたキャッサバを、ボールにとりわけて潰し、砂糖を入れてまとめ、平たく伸ばしてピーナツバターを塗り、ロールケーキのようにまいて、食べやすい大きさに切り分け完成。

3年ほど前から同校と関わりを持ち、スイーツをコラボ開発し販売した新倉屋製造係長の松田荘平さんも参加。

それぞれの個性を滲ませた「ムフマンガハズ」が出来上がり、みんなでマダガスカルのスナックを味わった。ダイヤモンドさんは、「いつも作るものと同じにできた」と話した。

樋口月さん(17)は、「思ったより上手にできた。作り方を家族に教え、みんなで楽しく作れると思う」と話した。

その後、ワールド・ランゲージ・センター(教室)で、ダイヤモンドさんからマダガスカルの文化や暮らし、ダンスや生息する動物や植物について、英語でのレクチャーがあった。参加した生徒は、真剣に話に耳を傾けていた。



子作りを体験した。同高には国際理解や文化を学ぶ専攻があり、月に1〜2回、外国人を交えた特別授業を行っている。この日はディアモンドラさんが食用作物「キャッサバ」で

つくる伝統菓子を紹介。生徒たちはディアモンドラさんから「キャッサバ」のすりつぶし方や味付けの仕方などを教わり、ロールケーキのような菓子を完成させた。

作った菓子を食べながら互いの文化を発表した。黒川千夏さん(17)は「おいしくて食べやすく、マダガスカルに興味が出た」と話していた。

(三坂郁夫)

没後84年！ 2/20(月)小樽多喜二祭 (2017/02/02)

ツイート

小樽多喜二祭実行委員会(寺井勝夫実行委員長)は、小樽が生んだ日本プロレタリア文学の代表作家・小林多喜二の没後84年目の命日2月20日(月)に、今年も「小樽多喜二祭」を開催する。

13:00から、多喜二が眠る奥沢墓地(奥沢5)で墓前祭を、15:00から小樽経済センタービル(稲穂2)4階ホールで記念のつどいを開く。

小林多喜二(1903.10～1933.2)は、秋田生まれの小樽育ち。小樽高商(現小樽商科大学)で学ぶ。文芸雑誌に数多くの作品を投稿し文壇デビューを果たし、蟹工船などの名作を生んだ。当時の治安維持法違反容疑で特高警察に逮捕されても、信念や思想・政治的立場を変えなかったため、29歳という若さで拷問によって虐殺された。

多喜二祭は、終戦の翌年1946(昭和21)年から、多喜二の生涯を偲ぶ者達が集まり1949(昭和24)年まで開催され、一旦中断。その後、1988(昭和63)年の没後55年に復活し、今年で29回目となる。



大阪・東京・秋田・神奈川、道内では釧路・江別など、多喜二を偲ぶ会が開かれている。

これまで墓前祭へは、JR小樽駅から送迎バスを用意していたが、今回は、小樽市民は路線バスで、市外からの参加者に限り、ホテル・ドリーミン前から実行委員の送迎車を12:00と12:30に利用できるよう変更した。

多喜二が眠る奥沢墓地では、前日に実行委員が雪かきをして道をつけた道路を歩き、多喜二の墓前で、寺井実行委員長らが挨拶。多喜二へ熱い思いを込めてメッセージを読み上げる。参加者は、実行委員会が用意した赤いカーネーションをで献花し、多喜二へ思いを馳せる。

記念のつどいでは、これまでの小樽市民センター(色内2)から、小樽経済センタービル(稲穂2)4階ホールに場所を変更し、15:00から実行委員会メンバーの大内巖氏が書き下ろした「多喜二と小樽」を市民5人による群読を行う。

多喜二が獄中から、童謡作家の村山篁子(かずこ)氏に宛てた手紙の一節(旭展望台多喜二文学碑に刻まれている)や、母セキの遺品の中から発見された詩を盛り込み、セキや多喜二が登場する25分ほどを群読。

特別出演として、福島県から琴古流橘梁盟氏による多喜二追悼の尺八独奏を披露する。

記念講演は、「多喜二の火を継ぐ小樽の人々」と題して、治安維持国賠同盟北海道本部宮田汎会長が、15:40から17:00まで講演する予定。引き続き、1965(昭和40)年旭展望台に建立した碑にまつわるエピソードを交えて、多喜二への思い「私と多喜二・文学碑のこと」を、寺井実行委員長が特別報告する。

寺井実行委員長は、「国民の自由が奪われた時代であってもペンを武器に、民衆の平和と幸せを願う活動に命をかけて戦った小林多喜二の生き方は、現代の時代にも大いに活かされている。多喜二の鮮烈な生涯を知っていただく機会として、多喜二祭に参加していただきたい」と話した。

来年は、没後85年、多喜二祭30回目の節目を迎える。

記念のつどい 2月20日(月)15:00～18:00
小樽経済センタービル(稲穂2)4階ホール 参加料1,000円・高校生以下無料
問合せ:080-6099-1815 小樽多喜二祭実行委員会(大地巖)

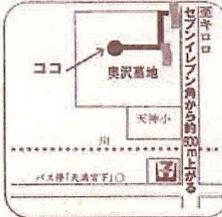
2017年小樽 2月20日(月) 没後84年

多喜二祭

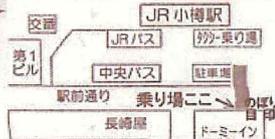


墓前祭

13:00 奥沢墓地



市内の方は、路線バスでお越しください。
市外の方は、ホテル・ドームイン前から実行委員会の送迎車が待っています。
(12:00、12:30) ご利用ください。



記念のつどい

小樽経済センタービル
4F 大ホール

(小樽市稲穂2丁目22)

参加券 ¥1,000 (高校生以下 無料)

主催 小樽多喜二祭実行委員会
問い合わせ 080-6099-1815 大地 巖

- ◇アトラクション 15:00~15:30
市民による群読
- ◇特別出演 多喜二追悼 尺八独奏
琴古流 橋 梁盟 氏
- ◇記念講演 15:40~17:00
「多喜二の火を継ぐ小樽の人々」
治安維持同盟北海道本部会長 宮田 汎 氏
- ◇特別報告 17:00~18:00
「私と多喜二・文学碑のこと」
小樽多喜二祭実行委員長 寺井勝夫 氏

後援: 小樽市 小樽市教育委員会 北海道新聞小樽支社 朝日新聞北海道支社 毎日新聞北海道支社 読賣新聞小樽支局 小樽地区労働組合総連合

社会福祉振興基金

道新

2日

◆「財界さっぽろ」が30万円 札幌市中央区南9西1、月刊誌「財界さっぽろ」は、昨年行った交通安全キャンペーン



ーンの協賛金の一部30万円を、交通に関連した福祉活動に役立ててと寄付した。舟本秀男社長「写真」が届けた。同寄付は42回目。

※ 舟本氏は本学経営協議会委員